

本土決戦体制下で秘かに準備されていたモノー

明治大学平和教育登戸研究所資料館 第4回企画展

本土決戦と秘密戦

—その時登戸研究所は何をしていたか—

2013/11/20 (Wed.) — 2014/3/8 (Sat.)

[2013年12月22日 (Sun.) ~ 2014年1月7日 (Tue.) まで休館]

開館時間: 10:00 ~ 16:00 休館日: 日曜日~火曜日 (団体見学事前予約の場合は日曜開館あり)

入館料: 無料 主催: 明治大学平和教育登戸研究所資料館 <http://www.meiji.ac.jp/noborito>

facebook: <https://www.facebook.com/Noboritoshiryokan> **twitter**: https://twitter.com/meiji_noborito

明治大学平和教育登戸研究所資料館

The defunct Imperial Japanese Army
Noborito Laboratory Museum for Education in Peace

本土決戦と登戸研究所

登戸研究所は、1945（昭和20）年春以降、登戸（生田）から長野県伊那地方を中心とする地域に分散・疎開しました。これは、米軍による空襲とともに、同年秋以降に想定された本土決戦に備える措置でした。本企画展では以下の3点に焦点をあて、本土決戦体制下における登戸研究所の役割を検証します。

①本土決戦体制は決して「幻」だったわけではなく、**現実**に準備されていたことを、松代大本営跡など長野県を中心とする地域の実地調査をもとに明らかにします。

②本土決戦における秘密戦の実戦部隊であり、登戸研究所でも密接な関係であった**陸軍中野学校**（群馬県富岡に移転）の役割の変化について検討します。

③本土決戦において使用する秘密戦兵器の研究・開発・生産にあたっていた**疎開後の登戸研究所の実態**について明らかにするとともに、次第に**実戦部隊である中野学校と一体化**していく過程を追跡します。



1



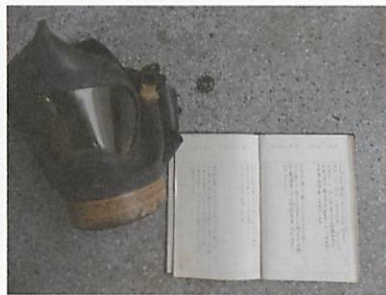
2



3



4



5



1. 松代大本営跡 象山地地下壕（トロッコ跡が残存） 2. 館山「桜花」カタapult（発射台）跡 3. 駒ヶ根市民俗資料館 外観（旧中澤国民学校校舎：登戸研究所疎開先）
4. 駒ヶ根 中澤国民学校 昭和19年度・20年度学校日誌 5. 左：七年式防空用防毒面（ガスマスク）、右：大月大尉（登戸研究所所員）日誌
表. 石井式濾水機 濾過筒（水を濾過するためのものだが、「軍事秘密」の刻印がある。実は濾過機は「秘密の細菌戦兵器」だった）（すべて明治大学平和教育登戸研究所資料館撮影）

関連イベント

■ 風船も兵器に？—和紙でランプシェードを作ってみよう

風船爆弾と同じ和紙風船でランプシェードを作ります。
11月23日（土）・24日（日） 10時半/13時/14時半
各回定員：10名 所要時間：60分
*各回開始10分前までに資料館にお集まりください。

■ 企画展記念講演会

2014年1月11日（土） 明治大学生田キャンパス中央校舎6階メディアホール
13:00～14:30 山田 朗 館長による企画展講演会
「本土決戦・登戸研究所・中野学校」（定員280名） *参加自由

■ 元登戸研究所関係者による証言会（12月開催予定）

登戸研究所などで勤務されていた方々をお招きし、証言会を開催いたします。

■ サテライト展示 12月上旬～（期間未定）

明治大学中野キャンパス6階クロスフィールドラウンジ
*最新情報については当館ホームページをご覧ください。

■ 山田 朗 館長による展示解説

企画展の展示解説を行います。
11月23日（土）・24日（日）、2014年2月22日（土）
各日13時～ *参加自由。当日資料館へお集まりください。



明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学生田キャンパス内 TEL・FAX 044-934-7993

アクセス：小田急線生田駅南口徒歩15分（途中70mほどの急坂あり）または向ヶ丘遊園駅北口より小田急バス「明治大学正門前」終点下車